

福島を置き去り 進む再稼働

無職

(奈良県 85)

地の原発再稼働に奔走している。

「高浜再稼働 子に即答できず」(2日)を読み、思わず落涙した。小学生が「また原発が爆発したら僕はどうなるの」とお母さんに尋ねたという。不安と恐怖におののく様子が伝わる。

3・11から来月で5年になるが今なお約10万人もの福島県民が避難している。電力会社はまた国民の命を危険にさらすのか。電力系会社から多額の政治献金を受ける政治家は再稼働を進める。命を軽んじてよいのか。政府も電力会社も財界も福島原発事故がなかったかのように国民の声を無視。各

地の原発再稼働に奔走している。原発事故当時18歳以下で、甲狀腺がんと確定したのは既に1000人を超えた。昨年9月末までの3カ月間に新たに11人ががんと診断。確定したのは計115人という。子供の心中を思うとつらい。

私は71年前の敗戦時のことを想起する。あの戦争で約310万人の日本人が亡くなった。その中には多くの子どももいた。1945年、中学生だった私は大阪大空襲に遭い、雨のように落ちてくる焼夷弾の中を逃げ回った。私は大人を恨んだ。なぜ無謀な戦争を止められなかったのかと。今、私たちは逆の立場になろうとしている。